

37 アカテガニ

(ベンケイガニ科)

兵庫県ランク:B

Chiromantes haematocheir

環境省ランク:指定なし

種の概要

青森県から九州南部までに分布する。甲幅30mm。陸生傾向が強く、海岸近くの斜面や湿地、林などに穴を掘っている。甲の側縁に切れ込みはなく、ハサミ脚は平滑でつやがあり、先端が白く後方が赤くなることで他種と見分けられる。ハサミ脚以外の体色は、全身真っ赤な個体や、濃褐色に額部だけ黄色が入ったものなど、変異がある。幼体は全体が山吹色であることが多く、成体よりも地盤の低い干潟後背部の塩生湿地などに見られる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
△			△				

県内分布

神戸市、加古川市、高砂市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、豊岡市、香美町、新温泉町、洲本市、南あわじ市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

CからBに変更。神戸市、播磨東部から西部、淡路島及び日本海側に分布する。河畔林などのある比較的広い河川河口域を好むため、神戸・阪神地域では生息場所がほとんどない。

保護上の留意点

陸生傾向が強い上に、産卵は必ず海に降りて行うため、本種の生息範囲は海岸林などの陸域から海浜に至る。夏の大潮の産卵時には、抱卵した雌が一斉に海に降りるが、この時に道路で踏みつぶされることが多く、堤防に阻まれて海に降りられないこともあると思われる。また、幼体の生息域である塩生湿地などの海岸後背地は護岸化されることがほとんどであり、それらの複合的な要因で個体数は激減したと考えられる。本種の個体群回復のためには、それら環境の保全に加えて、海から陸にかけての環境が分断されないような配慮が必要である。



写真提供：増田修



写真提供：西宮市貝類館



【執筆者】 渡部哲也